

Map 5 土 壤

土壌図は、地表を覆っている土壌の種類と分布を表現した地図です。土壌は気候や構成物質、動植物の影響などによって様々な性質をもちます。

奄美群島は亜熱帯海洋性気候に属し、年間を通して温暖・多湿です。適度に温暖で降水がある地域では、植物の落ち葉や枯れ葉が分解されて蓄積した腐植土とよばれる肥沃な土壌ができます(大区分:「褐色森林土」)。一方、気温が高すぎて有機物の分解速度が速すぎたり、降水量が多すぎて表土や栄養分が流出したりすると、有機物の少ないやせた土壌になります(大区分:「赤黄色土」)。

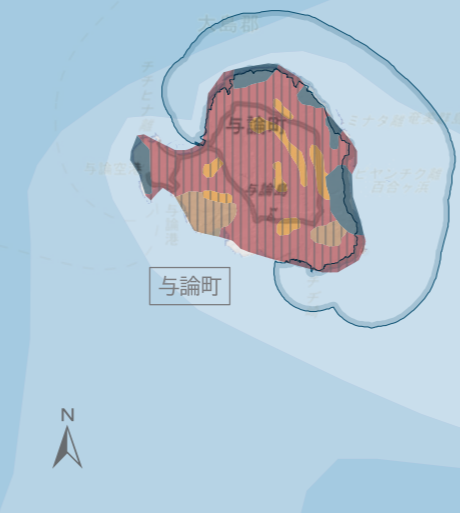
また、奄美群島の地形・地質や植生により、島の中央部では、古生層の堆積岩類に由来する赤色土壌、黄色土壌、褐色森林土壌(赤褐色型)が、海岸近くの緩傾斜の段丘や台地では、琉球石灰岩に由来する暗赤色土壌が広く分布しています。

—	大区分	小区分	内容
	岩屑土 (がんせつど)	岩屑性土壌	岩石が物理的風化作用により細かく崩壊してできたもの。急峻な山腹斜面および新しい溶岩流上に分布する。
	褐色森林土	乾性褐色森林土壌	温帯湿潤気候の森林植生のもとに生じる成帯土壌(気候的土壌帯)の一種。2~3センチメートルの落葉層の下に腐植を含む黒褐色の表土と酸化鉄に富む褐色の下層土が続き、その下は母材(岩石などの土の材料となるもの)となる。
		乾性褐色森林土壌(赤褐色系)	
		褐色森林土壌	
		褐色森林土壌(赤褐色系)	
	赤黄色土	赤色土壌	赤色または黄色の下層土をもつ土壌。温暖で、雨の多い湿潤亜熱帯気候下に発達する成帯土壌で、日本の代表的な土壌の一つ。堆積(たいせき)腐植層はほとんどなく、表土は腐植に乏しい薄い層である。下層土の色調のちがいで赤色土群と黄色土群に細分されるが、色以外の性質は大変よく似ており、両者は近接して分布していることが多いので、一括して赤黄色土とよばれる。
		黄色土壌	
		暗赤色土壌	
	灰色低地土	細粒灰色低地土壌	河川のはたらきによって低地に発達した土壌。河川の上流から運ばれたさまざまな堆積物や下流の植物死がいなどを母材とする。川の近くなど地下水の影響により鉄が水に溶け灰色になる。
	グライ土	細粒グライ土壌	最も地下水位が高く、年間を通じてほとんど水で飽和されたグライ層が50cm以内に出てくる土壌。氾濫原の後背湿地、三角州、潮汐平野(干潟)などに広く分布する。地下水位が高く、一般に、排水不良である。ほとんどが水田として利用されている。
	未熟土壌	砂丘未熟土壌	未熟土は、土層が薄いか、もしくは層位分化が進んでいない若い土壌。一般に腐植含量、粘土含量ともに低く、保肥力は低いが、排水性が良い。主に山地、傾斜地、海岸に分布する。

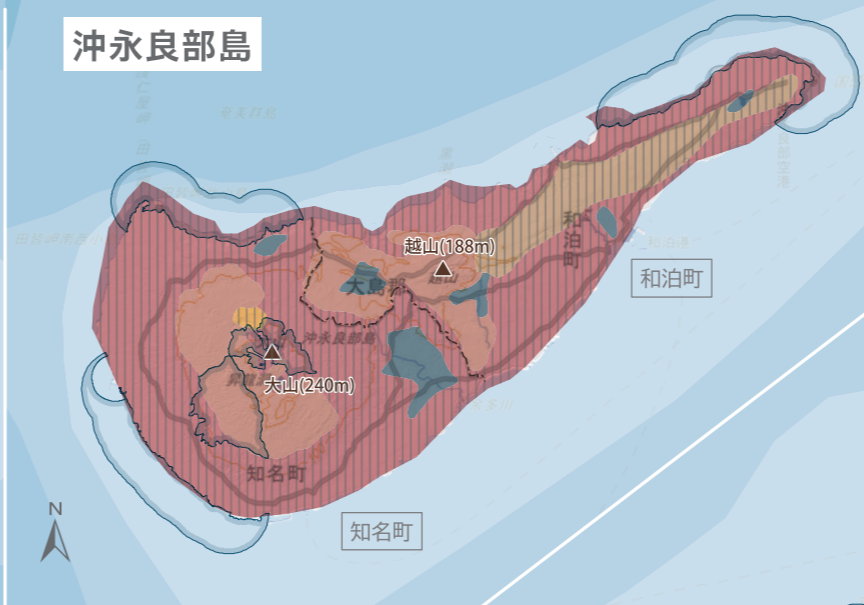
[出典]・土壌図 「20万分の1土地分類基本調査(地形分類図)鹿児島県」(国土交通省)
https://nlftp.mlit.go.jp/kokjo/inspect/landclassification/land/l_national_map_20-1.html#prefecture46、及び<https://nlftp.mlit.go.jp/kokjo/tochimizu/F2/MAP/246003.jpg>を加工して作成
 ・市町村界 「国土数値情報(行政区域データ)」(国土交通省)
https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-N03-v3_1.html#prefecture46
 ・陰影 基盤地図情報数値標高モデル 10mメッシュ(標高)より作成
 ・背景図 地理院タイル(淡色地図)



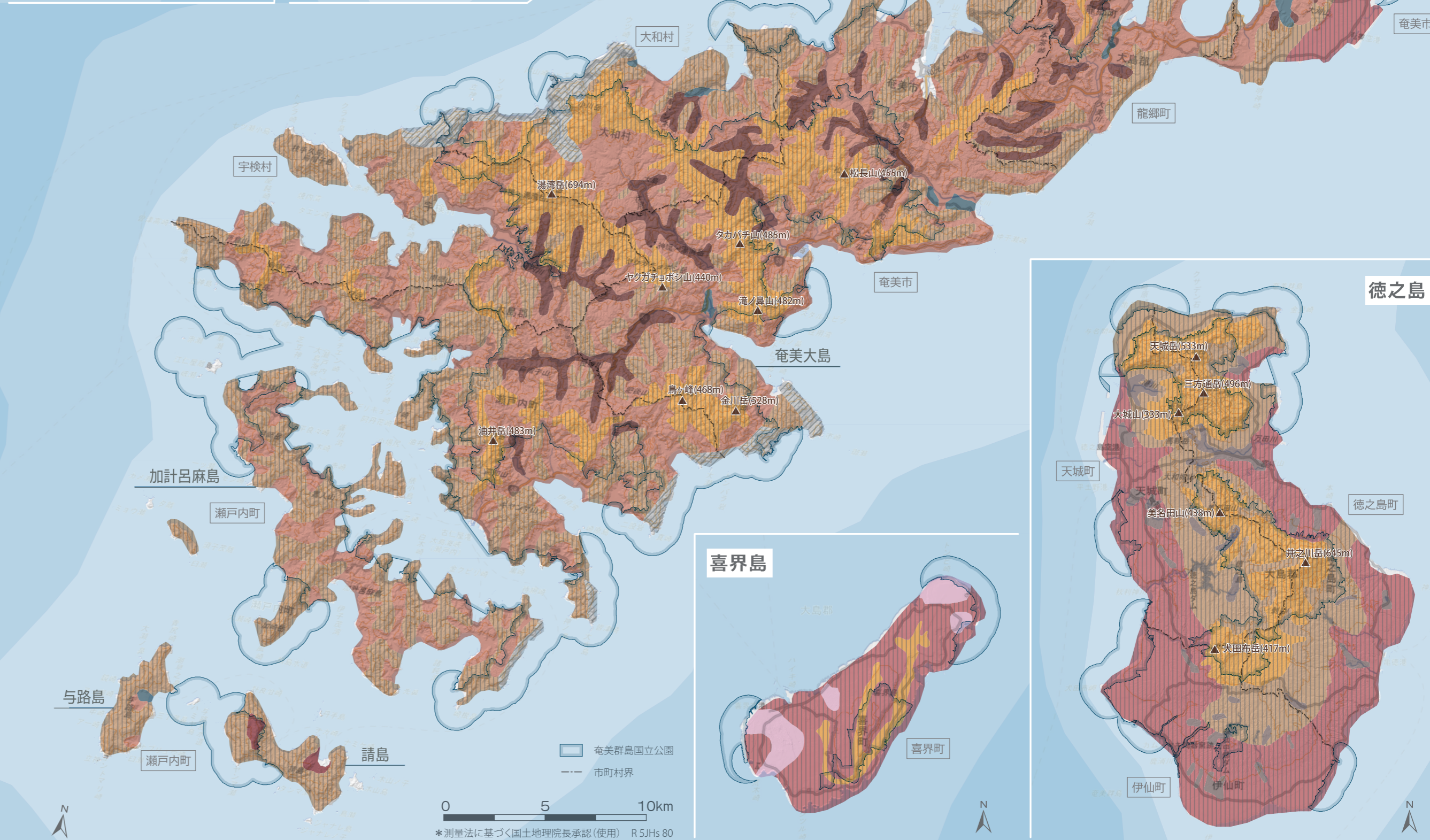
与論島



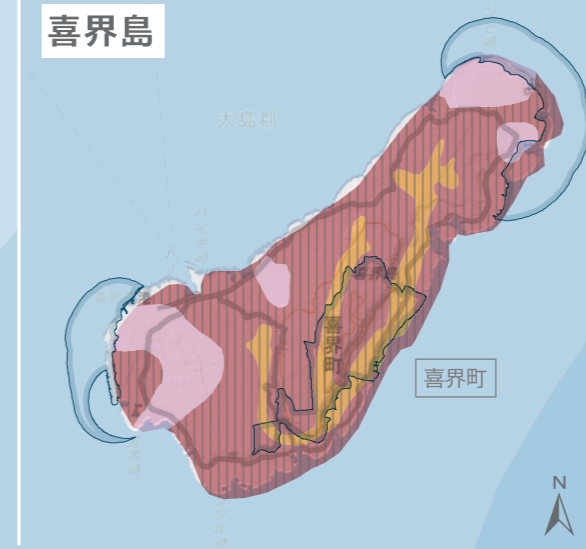
沖永良部島



奄美大島・加計呂麻島・請島・与路島



喜界島



徳之島

